

2. 愛知県岡崎市

2-1 市の概要

岡崎市は、古くは鎌倉時代から広域で中心的な役割を担ってきた。その変遷に目を向けると、門前町、城下町、宿場町、行政拠点、繊維業集積、金融業集積、自動車産業集積など、彩り豊かな歴史が垣間見られる。800年にも及ぶその歴史は、時代に合わせて役割を変化させる柔軟性に支えられてきた。

岡崎市を含む西三河地域は、製造品出荷額等の全国シェア約1割を占める、日本を牽引するものづくり地域である。また、岡崎市は小売業年間商品販売額数及び小売業の売場面積が西三河の中でもっとも高く、就従比が100%を下回っているなど買い物や居住など暮らしのまちとしての性格が強い。西三河一帯の強みである2次産業とそこに勤める方の暮らしを支える3次産業が高い次元でバランスよく備わっている事が岡崎市の強みとなっている。



2-2 事業の概要

データ駆動型イノベーション創出事業

近年、岡崎市の市域中心部はモータリゼーションの進展、大規模集客施設の中心市街地外への立地、市民病院などの公益施設や行政機能の拡散等により古くからの集積地としての役割を果たせなくなり、中心地としてのポテンシャルが低下するとともに、来街者の減少を始め消費者等の支持が低下し、「まちの顔」としての市民の認識も薄れている。

そのため、岡崎市では市中心部の乙川リバーフロント地区に位置する名鉄東岡崎駅、乙川河川緑地、桜城橋、中央緑道、籠田公園、りぶら、岡崎公園などの公共空間各拠点を結ぶ約3キロのまちの主要回遊動線を、岡崎城跡の外側「総曲輪（そうぐるわ）」から”QURUWA（くるわ）”と命名し、この地区の活性化を図るための戦略「QURUWA 戦略」を策定した。

同戦略に基づいて都市のコンパクト化と地域の稼ぐ力の向上を目指した公共投資による都市整備を平成27年度から行ってきた成果として、近年は、新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらも、拠点周辺で新たな賑わいが生まれ始めている。

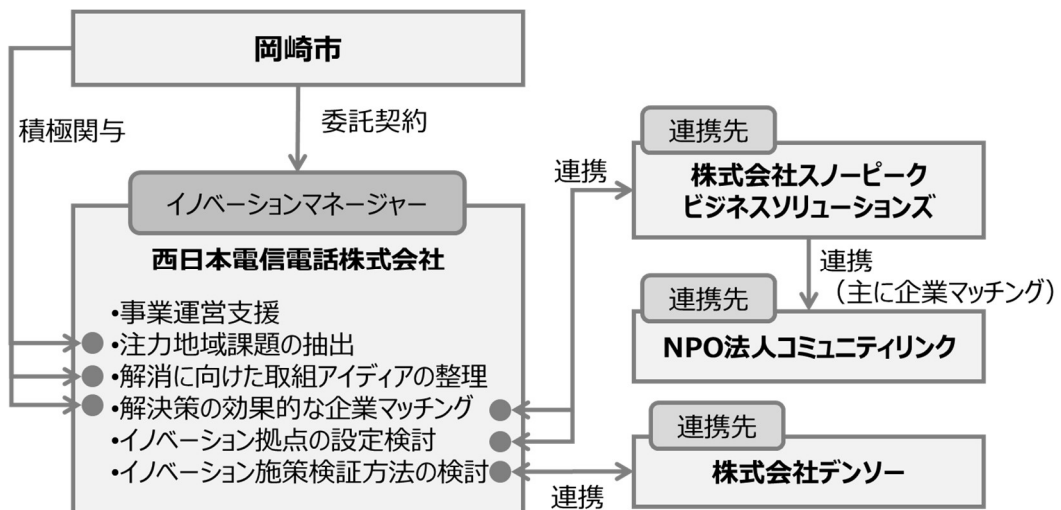
図表：乙川リバーフロント地区（QURUWA 地区）概観



しかしながら、QURUWA 地区において公共投資によるハード整備が完成しつつある中、これらの整備した空間を最大限に活用し、更なる賑わい創出と民間投資誘導を通じた「まちの稼ぐ力」を培うフェーズに移行させることが必要である。

そこで今回の「データ駆動型イノベーション事業」では、「Society5.0」に向けた方向性を取り入れてデータ駆動型社会のモデルを構築し、地域のイノベーション創出をエンジンとして地域課題を解決することにより、地域住民・事業者及び来街者のハピネスを向上させ、令和時代の持続可能なまちづくりを実現することを目指した各種取組みを実施した。

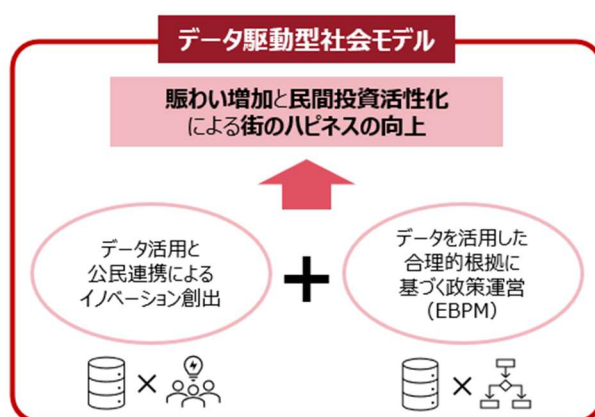
図表：実施体制



2-3 事業の構成

本事業は、「街のハピネスを向上するデータ駆動型社会モデルを構築する」というコンセプトに基づき、課題設定から事業パートナーと目標設定までの仕組みを構築する「地域イノベーション創出の仕組み作り」と具体のソリューションの活用を検討する「イノベーションのデータ駆動型社会モデルへの組込み」という2つの取組みから構成されている。

図表：本事業のコンセプト

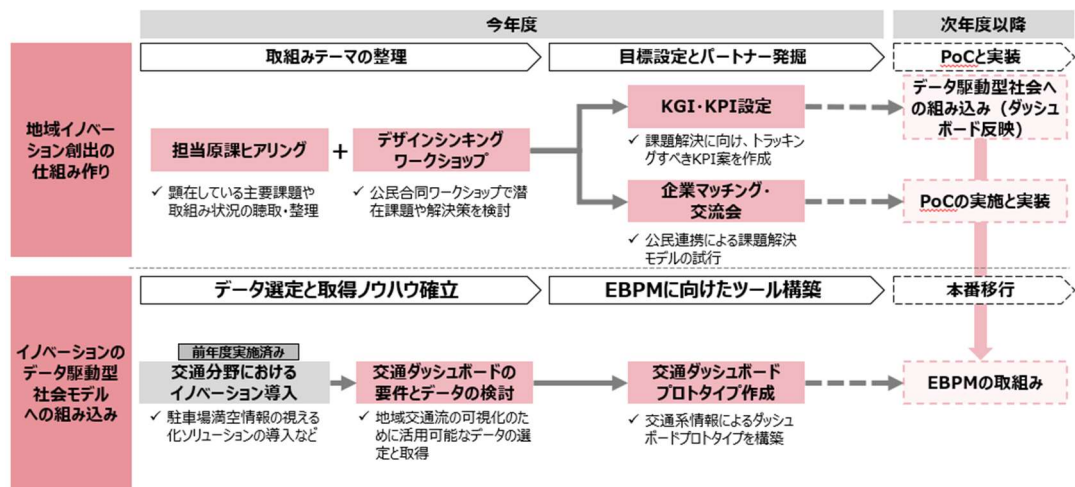


「地域イノベーション創出の仕組み構築」は、QURUWA 地区や岡崎市の抱える中長期的なまちづくり戦略において解消すべき社会的課題と課題解決の方向性を整理する”取組みテーマの整理”フェーズと、整理された取組みテーマに対して KGI・KPI の設定やイノベーションを実現する実証パートナーの発掘を行う”目標設定とパートナー発掘”フェーズに大別される。両フェーズの実行を通じ、地域イノベーション創出のための効果的な公民マッチングスキームの確立と実装を狙った取組みとなる。

一方で、「イノベーションのデータ駆動型社会モデルへの組込み」は前年度までに導入済みの交通領域におけるソリューション（駐車場空満情報の見える化ソリューションや人流分析カメラなど）を活用して QURUWA 地区の交通状況を可視化するために必要なデータセットを検討し、それら様々なデータを基に分析・可視化して、日常業務や経営そのものに役立てるソフトウェアである BI ツール（ビジネスインテリジェンスツール）を活用した交通ダッシュボードのプロトタイプ構築を行う取組みである。

本取組みによって構築されたダッシュボードのプロトタイプは次年度以降、上述の「地域イノベーション創出の仕組み構築」で設定された交通領域以外の KGI・KPI も取り込み、QURUWA 地区における都市マネジメントダッシュボードとして EBPM 実装のために活用していく想定をしている。

図表：本事業の全体構成



2-4 事業の実施内容

（１）地域イノベーション創出の仕組み構築

1) 取り組みテーマの整理

○課題の抽出（担当原課ヒアリング）

岡崎市では、2030年までの分野別指針として『第7次岡崎市総合計画』を策定し、10の領域で具体的な取り組みテーマを設定している。

本事業では、このうちQURUWA地区に関する取り組み、及びデータや公民連携の活用と親和性が高い7つの領域（モビリティ・観光・商業・ヘルスケア・シニア・子育て・安心安全）を検討対象と定めた。その後、各領域に関連する担当原課に対するヒアリングを実施し、既に顕在化している課題や現状の取り組み状況を確認した。



○デザインシンキングワークショップ

本事業では課題の抽出に際し、担当原課ヒアリングに加え、担当原課ヒアリングでは確認できない市民・来街者・事業者の抱える潜在的な課題と解決方法の方向性を確認するため、デザイン思考を活用した公民合同ワークショップを実施した。



2) 目標設定とパートナー発掘

OKGI・KPI の設定

担当原課ヒアリングとデザインシンキングワークショップを経て特定された各領域における課題や打ち手（解決につながる方策）の方向性を基に、課題解決に向けてモニタリングすべき KGI・KPI を検討した。検討に際し、各担当原課が各課の個別計画でモニタリングしている指標や国内外の他自治体の先行事例を参考にしつつ、現場での KPI 活用を早期に進めることを優先し、既に算出方法が確立している指標やオンライン領域における指標を中心に KGI・KPI を設定した。

○地域イノベーション交流会・企業マッチング

公民連携イノベーション創出に向けた機運を高めるため、企業マッチングのプロセスと並行して、「岡崎市地域イノベーション交流会 in QURUWA」と称した交流イベントをスノーピークビジネスソリューションズが中心となり企画・実施した。

また、担当原課ヒアリングとデザインシンキングワークショップの結果を参考に、公民連携の地域イノベーション創出を狙う具体的なテーマを4つ選定し、実証パートナーとなる民間事業者の公募を行った。

イノベーションの創出・実装を今後も継続的に進めるようにするため、更に岡崎市への理解と愛着を持って貰う仕掛けとして、“課題解決型ウェブプラットフォーム”と“リアルな交流の場”の融合によるアプローチを実施したことが、本事業の特色である。

企業マッチングでは、自治体の課題とスタートアップ・民間企業をマッチングするオープンイノベーションプラットフォームを運営する NPO 法人コミュニ

ティリンクと連携し、オンライン説明会の実施やアーバンイノベーション岡崎と題した特設サイトを立ち上げた。更に連携パートナー（西日本電信電話株式会社・コミュニティリンク・スノーピークビジネスソリューションズ）のパートナーネットワークを活用したスタートアップ・民間企業への直接アプローチなど、従来の民間企業公募とは手法を画する多様な手法を活用した。

図表：公募テーマ一覧（公募特設サイトより抜粋）

 人も社会も環境もウェルビーイングなQURUWA地区の「豊かな暮らし」の実証実験 岡崎市 都市施設課 QURUWA戦略係 #まちづくり #交通 #住宅・都市 #建設・土木 #環境 採択企業：選考中 終了	 「どうする家康」に便乗！宿泊につながる体験型コンテンツの開発・実証 岡崎市 観光推進課 #まちづくり #産業振興 採択企業：選考中 終了	 最先端技術を用いて河川管理を効率化し、地域の防災力を高めたい！ 岡崎市 河川課 #建設・土木 #防災 採択企業：選考中 終了	 育児における不安や孤独感を解消したい！新たな子育て情報発信ツールの実証開発 岡崎市 こども育成課 #子ども 採択企業：選考中 終了
--	---	--	--

（２）データ駆動型社会モデルに向けた検討

1) 収集データの整理

○混雑・渋滞対策に対する要件定義と必要データ検討

岡崎市では多くの市民が日常の移動手段としてマイカーに強く依存しており、今後もその傾向が進行することが予想されている。このような自動車の利用増加により、国道１号と国道２４８号などの幹線道路の交通混雑・渋滞が発生しており、交通分野における大きな課題となっている。QURUWA 戦略のターゲットの一つに”街の賑わい創出”があることから、QURUWA 地区では、交通渋滞の緩和と地区内の人流増加という、一見相反するような状態を両立させていくことが求められる状況にある。

こうした状況に対応すべく、２０２０年度までに街頭カメラやデジタルサイネージを活用した人流データや駐車場満空状況の取得ができるソリューションの導入を進めており、これらから得られるデータの蓄積は進んでいる。

一方で、こうした個別ソリューションのアウトプットを一元的に俯瞰する仕組みは未導入である。そのため、QURUWA 地区におけるイベント開催時における交通混雑対策が有効であったか、などの施策効果の振り返りが困難な状況にあった。

そこで本事業では、これまでの取組みを踏まえ、データを活用した交通量・人流量の可視化モデルの確立を行うと共に、各種施策の効果検証としても可能

とするため、交通分野を題材として都市マネジメントダッシュボードのプロトタイプの実施した。具体的な取組みとして、まずは交通ダッシュボードに求められる事項を整理しつつ、ダッシュボードの定義書を作成し、求められるデータを明らかにした上で、関連するオープンデータや業務データの利用可否や紐づけを検討し、データ規約を整理した。

2) 収集データの活用手法検討

○交通ダッシュボードプロトタイプ作成

前フェーズで整理したデータセットをB I ツール「Tableau」により視える化し、交通ダッシュボードのプロトタイプを作成した。各施策の担当原課が、継続的にダッシュボードの更新・新規構築やB I ツールを活用したデータ分析が自律的に実施できるよう、庁内向けにダッシュボードプロトタイプ及びB I ツールに関する勉強会を実施した。

2-5 事業の成果と課題

(1) 地域イノベーション創出の仕組み構築

1) 取組みテーマの整理

○課題の抽出（担当原課ヒアリング）

担当原課ヒアリングを計7日間にわたり13原課に対し実施した。ヒアリングは事前に作成したヒアリングシートに基づいて実施し、合計で90個の課題や取組みを抽出した。

図表：ヒアリング結果概要

	担当課名	地域の課題（一部）	課題への取組み内容（一部）
観光	観光推進課	行政課題 ✓ 来街者データの取得・活用 地域課題 ✓ ブランディング	✓ スポットでGPSを活用したデータ収集を検討中
商業	商工労政課	地域課題 ✓ デジタル人材育成 地域課題 ✓ テナント誘致	✓ 起業家支援制度（Oka-biz）
ヘルスケア	健康増進課	行政課題 ✓ 健康無関心層へのアプローチ 行政課題 ✓ 他部署との連携	✓ 健康マイレージ事業の実施
シニア	長寿課、介護保険課	行政課題 ✓ 非デジタルでの有効な情報伝達 地域課題 ✓ 介護人材不足	✓ 見守り支援事業の実施
子育て	保育課・こども育成課 多様性社会推進課	地域課題 ✓ 保育人材不足 地域課題 ✓ 母親支援	✓ 子育て支援施設の拡充
安心安全	防犯交通安全課 防災課・河川課・消防本部	地域課題 ✓ 児童・独居高齢者等の安全確保 行政課題 ✓ 水害対策	✓ 街頭防犯カメラの一部活用

○デザインシンキングワークショップ

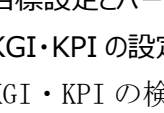
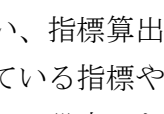
デザインシンキングワークショップは、既に課題が明確となっているモビリティを除く6領域（観光・商業・ヘルスケア・シニア・子育て・安心安全）に

ついて、各回2領域を取り上げ、合計3回実施した。市民目線・事業者目線を取り入れるため、岡崎市内に事業所を置く民間事業者に協力を求め、延べ55名（うち民間からの参加者20名）が3日間で合計366個の課題と577個の打ち手の抽出を行った。

デザインシンキングワークショップの狙いは、地域課題に対しユーザー目線に立った複数の打ち手アイデアを創出することにある。実際に担当原課ヒアリングでは拾い切れなかった住民目線・事業者目線での地域課題を抽出することができた。さらに、今後検討していくべきイノベティブな課題解決方法の具体化に向けた方向性を成果物として得られた。また、チームが一体となり、短い期間の間で集中的に討議し具体的なアウトプットを作成するというワークショップの建付けにより、公民それぞれの参加者が公民連携によって得られるメリットを仮想的に体感することができた機会ともなった。

今後の課題として、①今回抽出したイノベティブな打ち手の方向性を具体的な政策に反映させていくこと、②本ワークショップを通じて得られた気づき（地域課題にアプローチする際のデザイン思考の有用性、効果的なワークショップ企画・運営のポイント等）をいかに”手の内化”していくかの2点が挙げられる。

図表：デザインシンキングワークショップ結果概要

	当日の様子	課題（一部）	設定ペルソナ例	打ち手案（一部）
観光		✓ 簡単に観光情報を集めたい ✓ 効率的に移動したい	観光客 (20代女性)	✓ 観光情報ポータル開設
商業		✓ 地域内で連携してマーケティング・プロモーションを実施したい	開業志望者 (20代男性)	✓ 事業者と消費者、起業検討者を繋ぐプラットフォームの設置
ヘルスケア		✓ 楽に健康管理したい ✓ 健康も気になるけどおいしいもの食べたい	健康管理低意識者 (40代男性)	✓ 継続インセンティブ付き健康管理アプリ
シニア		✓ 本当は誰かの力を借りたい ✓ 悩みを共有したい	認知症患者同居者 (80代男性)	✓ 民間コミュニティによる相互支援の仕組み作り
子育て		✓ 効率的・効果的に時間を使いたい	共働き世帯の育児疲れ (30代女性)	✓ 家庭と市・保育所をつなぐアプリ
安心安全		✓ 防災情報を判り易く入手したい ✓ 皆が安全に避難できる仕組みが欲しい	県外からの転居者 (30代女性)	✓ 安全・防災情報プラットフォームの設置

2) 目標設定とパートナー発掘

OKGI・KPIの設定

KGI・KPIの検討は、数値指標をベースにした短期PDCAサイクルの早期実装を狙い、指標算出の追加工数を最低限に抑えるべく、既に算出方法が庁内で確立している指標やオンライン領域における指標を中心に合計19の指標をKGI・KPIとして設定した。具体的なアプローチとしては、①前フェーズで抽出した課題・取組みアイデアの整理、②岡崎市の既存KPIや他自治体KPIの調査・分

析、③分析結果を基に作成した初期案の作成と担当原課とのすり合わせ、という手順を踏んだ。

図表：KGI/KPI 初期案一覧

全体	KGI	QURUWA施策に対する満足度、社会資本整備総合交付金評価で使用している指標
観光	KPI	岡崎公園の入込み観光客数、観光サイトPV数
商業	KPI	QURUWA地区往来者数、新規開業融資申請数、市役所サイト起業支援ページPV数 他
ヘルスケア	KPI	OKAZAKIまめぼユーザー数、QURUWA関連プログラム参加者数
シニア	KPI	市役所サイトシニア関連ページPV数等、シニア層のQURUWA地区往来者数
子育て	KPI	市役所サイト子育て関連ページPV数、未就学児・児童層のQURUWA地区往来者数
安心安全	KPI	警察からの防犯カメラデータ照会件数、防災ポータルPV数、安全情報Twitterフォロワー数
モビリティ	KPI	QURUWA地区主要地点の交通量（自動車）、駐車場稼働率、主要地点往来者数

今後はこれらの指標を前述の都市マネジメントダッシュボードに追加掲載し、従来の中長期的な政策評価を補完する、リアルタイム性の高い施策評価と改善のサイクルを導入していくことが課題となる。

図表：KPIを活用したPDCAサイクルのイメージ



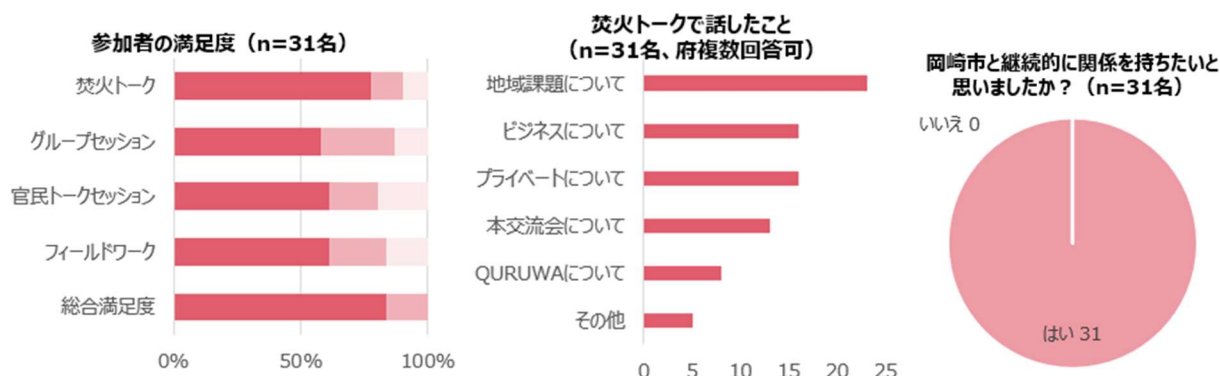
○地域イノベーション交流会・企業マッチング

企業マッチングと並行して企画・実行された公民交流イベント「地域イノベーション交流会」には、合計 43 名が参加した。市職員や地元企業、全国展開している企業の岡崎支店・支所、大学・NPO 関係者など多様なバックグラウンドと岡崎市に対する興味関心を持つ参加者が集い、半日間 QURUWA 地区でのフィールドワークや講演会、グループセッション、乙川河川敷の公共空間を活用した「焚火トーク」（参加者が焚火を囲みながらフリートークをするカジュアルな交流）を実施した。

交流会終了後に実施した参加者アンケートでは、焚火トークを中心に参加者の高い満足度を獲得できたこと、各セッションで一体感のある雰囲気の中、参

加者の間で様々な会話が生まれたこと、岡崎市や市の取組みに対する興味・関心を強化することが出来たことが確認された。また、本交流会をきっかけに市各担当原課と参加事業者、あるいは参加事業者間で、今後の具体的な協業の可能性も生まれている。これらを踏まえ、本交流会は本事業の特徴である岡崎市が持つ魅力的なリアルアセットと民間のノウハウ・ネットワークの掛け合わせにより、当初想定していた以上の大きな成果をあげられた。

図表：交流会事後アンケートの結果



アーバンイノベーション岡崎のプラットフォームを活用して行った企業マッチングの応募件数は目標 20 件を大きく上回る 45 件となり、また応募内容も非常に質が高かったことから、当初 2 社を予定していた実証パートナー選定も 4 社選定することとなった。

図表：企業マッチング実施プロセス



また、マッチングプロセスの実施と並行して、先行自治体の事例等を参考にしながら、行政サービスへの組み込み度合いを基準に地域イノベーション公募事業の3類型を定義し、それぞれの特徴を踏まえてPoC（Proof of Concept：概念実証）の成否判断や中止判断の基準を整理した。

この整理を通じ、従来の仕様書を介して調達が行われていた民間ソリューションの発掘においても、課題のすり合わせ時点から民間事業者を巻き込むマッチングプロセスを経ることによって、想定以上に多様なアイデアを発掘でき、このアプローチが有益な方法であることが整理できた。

図表：公募事業の3類型

	地域課題解決 ← → 行政課題解決		
	実証フィールド提供型	機会創出型	ソリューション発掘型
定義	産業活性化や企業誘致を目的に行政が民間企業に対して新規ビジネスの実証フィールドを提供	地域課題・行政課題の解決につながる民間投資を誘引するために、行政が課題・情報を提供	地域課題・行政課題解決に向け、行政サービスに組み込む民間ソリューションを発掘すべく、行政が課題・情報を提供
本事業対象案件	本事業では対象無し	✓ QURUWA地区の「豊かな暮らし」の実現 ✓ 「どうする家康」関連の宿泊につながる体験型コンテンツ開発	✓ 先端技術による河川管理 ✓ 子育て情報発信ツール開発
PoCの成否/中止判断	実証パートナーが判断	行政 and/or 実証パートナーが判断 (行政と民間双方が期待するアウトカムに繋がるかという視点で判断)	行政が判断 (行政として管理するKGI/KPIの改善に繋がるかという視点で判断)

企業マッチング・地域イノベーション交流会に関する今後の課題として、今回選定した実証パートナーと共にPoCを行い、その結果を踏まえて地域への実装を行うという一連のサイクルを完遂すること、そのプロセスを一度限りのものとせず、継続的に実行するための再現性の確保が挙げられる。

また、マッチングプロセスで今回は不採択となった応募事業者・交流会参加事業者が持つ、岡崎市に対する熱量や今回の事業を通じて生まれた繋がりを、維持・拡大する仕組み作りも大きな課題となる。

(2) データ駆動型社会モデルに向けた検討

1) 収集データの整理

○混雑・渋滞対策に対する必要データ検討

効率的・効果的な検討を行うため、必要データ検討の前段階として交通ダッシュボードに求められる要件の定義を①基本設計、②データ定義（取り込むべ

きデータのリスト)、③ディメンション定義(データを集計・分析する軸のリスト)、④運用定義、⑤画面イメージの5つの観点で整理をした。その上で現有データの過不足や追加すべきデータを確認し、その運用実現性の検討を行った。データ定義・ディメンション定義の結果は以下の通りである。

図表：交通ダッシュボードのデータ定義

データ	概要	ソース	イベント日データ取得可能予定
LiDAR動画	LiDARセンサーで計測した人流計測動画。 Youtubeに搭載した動画をダッシュボードに埋め込む。	デンソー/ デンソーウェブ	2022年1月
LiDAR滞在	LiDARセンサーで計測した人流データ。 CSVファイル形式。	デンソー/ デンソーウェブ	2022年1月
LiDAR通行	LiDARセンサーで計測した人流データ。 CSVファイル形式。	デンソー/ デンソーウェブ	2022年1月
断面交通量	ある道路断面をある方向に通過する単位時間当たりの交通量(単位:台)。 CSVファイル形式。	JARTIC	2022年1月上旬
人流カメラ	岡崎市内に設置された人流分析カメラ21台によるIN/OUT数。 ※商店街2、桜城橋2、東岡崎駅4、商店街8(康生4、連尺4)、りぶら1、中央緑道4	岡崎市 (NEC)	2021年11月下旬
サイネージ閲覧数	岡崎市内に設置されたサイネージを視聴した人数とAIにより属性メタデータ化した視聴者データ。 CSVファイル形式。	岡崎市 (NTT西)	2021年12月上旬
駐車場料金検索サイトWEBアクセスログ	ブラウザ版PPPARK!内の「岡崎市特設ページ」へのユーザーアクセスログ。 GoogleAnalytics接続形式。 https://pppark.com/okazaki/riverfront/	インテレス	リアルタイム反映
天気予報	気象庁が公開している気象観測データ。 CSVファイル形式。 https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php	気象庁	2021年12月上旬

図表：交通ダッシュボードのディメンション定義

データ	集計軸	集計項目	分かること
LiDAR動画	データ形式の特性により集計機能を持たないものとする。		イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に人数がいるか
LiDAR滞在	計測地点ごとの時系列	人数カウント	イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に人数がいるか
LiDAR通行	計測地点ごとの時系列	人数カウント	イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に人数がいるか
断面交通量	計測地点ごとの時系列	断面交通量(台数)	イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に交通量があるか
人流カメラ	カメラごとの時系列	IN/OUT別 人数カウント	イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に人数がいるか
サイネージ閲覧数	計測地点ごとの時系列	人数カウント	イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に人数がいるか
駐車場料金検索サイトWEBアクセスログ	時系列	ビュー数	イベント時においてどれくらい QURUWA地区周辺に自動車来訪者数があるか

2) 収集データの活用手法検討

○交通ダッシュボードプロトタイプ作成

前段階で作成した定義書を基にB I ツール「Tableau」を利用し、ダッシュボードのプロトタイプを構築した。ツールに馴染みのないユーザーでも、ある程度直観的に理解・操作が可能になるよう、ダッシュボードタイトルや各グラフへ遷移する際のタブの配置、指標と地図情報を組み合わせた画面構成等に工夫を凝らした。また、ダッシュボード構築と並行して実施した、庁内向けダッシュボードプロトタイプ及びB I ツール勉強会には、庁内外のプロジェクト関係者7名が参加し、B I ツールを活用した庁内オープンデータの自律的な活用方法について理解を深めることができた。

図表：プロトタイプの画面イメージ



今後の課題としては、①QURUWA 地区に関係する各施策の担当原課が本ダッシュボードを活用し、賑わい創出と渋滞緩和の両方の観点から各施策の効果を検証する仕組み作り、②検証結果を次回以降の施策に素早く反映させる短期PDCAサイクルの実装、③市職員によるB I ツールの自律的な活用（市職員によるダッシュボードの編集・更新）、④B I ツールを活用した分析、⑤ダッシュボードの新規構築等）が挙げられる。

これらの課題は、本ダッシュボードに交通領域以外のKGI・KPIを追加し、EBPMの基礎となる都市マネジメントダッシュボードへ発展させていくプロセスにおいても、極めて重要な論点となる。

2-6 今後の展望

次年度以降も本事業で取り組んだ”地域イノベーション創出の仕組み作り”と”データ駆動型社会モデルに向けた検討”を継続していくこととしている。

“地域イノベーション創出の仕組み作り”については、今年度導入・実施した仕組みの活用・発展を目指し、今回選定した4社の実証パートナーと共に PoC を実施し、その結果を踏まえた予算化を検討していく。また、今年度の実績を受け、同様のプロセスを個別に実施したい担当原課が出てきていることから、こうした意欲のある担当原課主催によるマッチングの取組み実施を検討したいと考えている。

“データ駆動型社会モデルに向けた検討”に関しては、QURUWA 地区に関する各施策の担当原課が交通ダッシュボードを活用し、賑わい創出と渋滞緩和の両方の観点から、各施策の効果を検証することの習慣化を目指す。

併せて、個別の取組テーマとし、2023 年度に放送を控える、NHK 大河ドラマ「どうする家康」とタイアップした大河ドラマ館を起点とする「回遊促進」と「交通渋滞緩和」の検討にも活用していく。また、デジタル・データ人材の育成を継続し、交通領域以外の KGI・KPI の効果的な活用や都市マネジメントダッシュボードの構築も引き続き検討していく。